

点検の実施方法

点 検 個 所		点 検 項 目	点 検 の 実 施 方 法
運行中の異状箇所		当該箇所の異状	前日又は前回の運行中に異状を認めた箇所について、所運行に支障がないかを点検します。
運転席での点検	ブレーキ・ペダル	踏みしろ、ブレーキのきき	エンジンをかけた状態でブレーキ・ペダルをいっばいに踏み込んだとき、床板とのすき間(踏み残りしろ)や踏みごたえが適当であるかを点検します。 (床板とのすき間が少なくなっているときや、踏みごたえがやわらかく感じるときは、ブレーキ液の液漏れ、空気の混入によるブレーキのきき不良のおそれがあります。)
	駐車ブレーキ・レバー (パーキング・ブレーキ・レバー)	引きしろ(踏みしろ)	パーキング・ブレーキ・レバーをいっばいに引いた(踏んだ)とき、引きしろ(踏みしろ)が多すぎたり、少なすぎたりしないかを点検します。
	原動機(エンジン)	※かかり具合、異音	エンジンが速やかに始動し、スムーズに回転するかを点検します。また、エンジン始動時及びアイドル状態で、異音がないかを点検します。
		※低速、加速の状態	(1) エンジンを暖機させた状態で、アイドル時の回転がスムーズに続くかを点検します。 (2) エンジンを徐々に加速したとき、アクセル・ペダルに引っ掛かりがないか、また、エンスト、ノッキングなどを起こすことなくスムーズに回転するかを走行するなどして点検します。
	ウインド・ウォッシャ	※噴射状態	ウインド・ウォッシャ液の噴射の向き及び高さが適当かを点検します。
ワイパー	※拭き取りの状態	(1) ワイパーを作動させ、低速及び高速の各作動が不良でないかを点検します。 (2) きれいに拭き取れるかを点検します。	
エンジンルームの点検	ウインド・ウォッシャ・タンク	※液量	ウインド・ウォッシャ液の量が適当かを点検します。
	ブレーキのリザーバ・タンク	液量	リザーバ・タンク内の液量が規定の範囲(M AX～ MINなど)にあるかを点検します。
	バッテリー	※液量	バッテリー各槽の液量が規定の範囲(UPPER～ LOWERなど)にあるかを車両を揺らすなどして点検します。
	ラジエータなどの冷却装置	※水量	リザーバ・タンク内の冷却水の量が規定の範囲(MAX～MINなど)にあるかを点検します。 (冷却水の量が著しく減少しているときは、ラジエーター、ラジエータ・ホースなどからの水漏れのおそれがあります。)
	潤滑装置	※エンジン・オイルの量	エンジン・オイルの量がオイル・レベル・ゲージにより示された範囲内にあるかを点検します。
	△ファン・ベルト	※張り具合、損傷	(1) ベルトの中央部を手で押し、ベルトが少したわむ程度であるかを点検します。 (2) ベルトに損傷がないかを点検します。
車の周りからの点検	灯火装置、方向指示器	点灯・点滅具合、汚れ、損傷	(1) エンジン・スイッチを入れ、前照灯、制動灯などの灯火装置の点灯具合や方向指示器の点滅具合が不良でないかを点検します。 (2) レンズや反射器に汚れや変色、損傷などがいないかを点検します。
	タイヤ	空気圧	タイヤの接地部のたわみの状態により、空気圧が不足していないかを点検します。 (扁平チューブレスタイヤなどのようにたわみの状態により空気圧不足が分かりにくいものや、長距離走行や高速走行を行う場合には、タイヤゲージを用いて点検します。)
		亀裂、損傷 異常な摩耗 ※溝の深さ	タイヤの全周に著しい亀裂や損傷がないかを点検します。また、タイヤの全周にわたり、釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んでいないかを点検します。 タイヤの接地面が異状に摩耗していないかを点検します。溝の深さに不足がないかをウェア・インジケータ(スリップ・サイン)などにより点検します。
備 考		※の点検項目は、高速道路を利用した長距離走行の前や、洗車・給油を行うときなどを目安に行ってください。 △の点検箇所は、定期点検の際に実施するなどしてください。	